

ビハーラレポート

No.17

NOVEMBER

1995

CONTENTS

セミナー	三浦義弘 弘前大学倫理委員として	2
仏教講座	小林匡俊 浄土宗を学ぶ	15
Book Review	老いの楽しみ	18
INFORMATION		19

ビハーラ Vihara

休養の場所、気晴らしをすること、僧院または寺院

『漢訳対照梵和大事典』

- 一、病人に供給す 二、病のために医薬の具を求む
- 三、病者のために看病人を求む 四、病者のために法を説く
- 五、余の比丘のために法を説く 六、法を聞いて教化す
- 七、大徳のものに供養し、恭敬するために 八、聖衆に供給するために
- 九、深経を読誦するがために 十、他に教えて深経を読ましむ

『十住毘婆沙論』卷第十六

弘前大学倫理委員として

1995年10月4日 鷹巣町 中央公民館研修室

三浦義弘

弘前市 曹洞宗盛雲院住職

はじめに

今ご紹介頂きました三浦です。昨日ビハーラレポートのナンバー16を頂きまして、木村先生があんまり素晴らしいことを言っているんで、今日は逃げようと思ったんですけども、まあ何でもかんでも喋って、もし失敗したら坊主になって謝ればいいのかと、そう思ってきたんですけど。今、司会の方がいわれたように弘前大学の倫理委員会の委員をしております。実はたまたま秋田の阿部さんという方が弘前大学で肝臓の移植手術をうけました。そのお話をしたいなと思って、東奥日報の記事を切り取ってまいりました。後でお話ししてみたいと思います。

最初に思い付いたことをお話してみたいと思います。木村先生のレポートを拝見いたしますと、多少誇張もあるし私が弁解しなけ

ればいけない点もあるので少し考えてみようと思うんですけども。木村先生が開業して第1番目の患者が私の妹でした。これは体が悪くて行ったんじゃないです。結婚問題です。妹には好きな人がおりましたが両親は大反対です。そのころ私は東京にいました。電話で話を聞いておりましたが、これは反対してもどうにもならないと思いました。そこで何だかんだ理由をつけて病気ということにして木村先生のところに入院させました。病名は何でもつけられると言って、心の病気ということでお世話になりました。そんな先生です。木村先生は私の父を殺した先生です。(笑)医者是人をポアしても全然捕まらない。どこかに行っても木村先生は私の父を殺した先生ですと言うと、最初はズいぶん怒っていました。この頃は自分の方から私が和尚の父を殺した医者です、と言うようになりま

した。懺悔の心がだいぶ湧いてきました。(笑)今日はここで喋る羽目になりましたが、袴田さんからは責められるし、医者様からは責められるし、俺も行ってきたんだからお前も行ってこいと言ことで仕方なく参ったんです。

私が倫理委員会の委員をしていますのも、木村先生と本を書いたのがきっかけであります。最初の倫理委員会の委員長は村上利という法医学の教授でした。この先生に、「うちのお壇家に枕経に行くと必ず顔を見るようにしているんですが、みんな穏やかないい顔をしている」、と話したことがあるんです。するとニヤッとわらって、「そんなことないよ、あんたはいい時見るんだよ。俺のところへ来るときはすごいよ、自殺で汽車に轢かれたり殺されたりひどい顔をしてるんだ。それをホースで水をかけたり顔を叩いたりしているうちに段々穏やかないい顔になるんだよ。」という話でした。これが私が倫理委員になった年、平成2年です。

私はそのほかに刑務所の教誨師という仕事をしています。そう言いますと皆さんびっくりされて、相当立派な人だと思いいになるでしょうけど、私も最初誘われたときにそう思いました。罪を犯した死刑囚が教誨師の話聞いて悔い改め静かに絞首台の露と消える、

私にはそんなことはできないと最初お断りしたんです。そしたら私に薦めてくれた人がうまいことを言いましたね。三浦さん、あまり立派な人は教誨師にむかんのだよ。一番いいのは刑務所に入るか入らないか、スレスレの人だよ。(笑)絶対断られませんか。それでやったんです。最近神道の方が入ったんです。猿賀神社という尾上町の神社の神主さんです。私同じことを言いました。そしたらそれを神社庁の本に書きました。先輩にそんなことを言われてやる気になりました、と。それを見たある人が、この先輩ってのはあんたでしょって言われました。(笑)

私は教えに行くんじゃないんです。教わりに行くんです。面白いことがありますよ。青森の刑務所は今建築中であります。刑務所の建築というのは変わっております。最初に塀から作るんです。それから房舎を作って、できたら入れるんです。できるまでどっかに引越して訳に行きませんからね。私は最初に行ったところは運動会に行ったりカラオケ大会の審査員に招かれたりしました。カラオケ大会はすごいうまいのばかりいるんです。どうしてかと思ったら、うまいはずですね。やくざがやくざの歌を歌うんですから。「関東ながれ歌」なんて涙がたま

した。(笑)

糖 尿 病 と 死 刑

私は5年位前から糖尿病なんです、本当は糖尿病じゃなかったんですが木村先生に糖尿病にさせられちゃった。お前は家にいてフラフラしているから病院にでも入れと言って、弘前大学の第3内科に試験入院させられました。問診をしながら血圧を取りました。今まで血圧が高いなんていわれたことがないんですが、女医さんに手を握られた瞬間に上がりまして、あなたは血圧が高いですね、カルテに塩分控えめと書かれました。(笑) 次の日、他の看護婦さんに血圧を計られましたら正常なんです。「あら、昨日高かったじゃない。」「ええ、昨日の先生はきれいでしたから。」「私じゃだめなの。」って怒られました。(笑) 毎日血圧を計って採血されました。一日2回までは採血ですが8回も取られたら吸血ですね。(笑) 午前中はビデオを見せられまして糖尿の恐さを教えられました。午後になると教授か助教授が来まして、また恐ろしさを教えられるんですね。あなたこのままだと60で死んじゃうよって。毎日毎日そうやって言われて、一ヵ月半おりました。20キロ痩せました。フラフラになったら、あなたも立派な糖

尿病の患者さんになりましたね、どうぞ退院してください。(笑)

『祈りと手当て』にもいろんなことを書いてますけど、医者にならなかった坊主と坊主にならなかった医者と。「ら」と「れ」が違う。先生は多分「ならなかった」。僕は「なれなかった」。私のじいさんは変わった人で、お前は勉強して医者になれ、医者になれ、と言っていた。じゃあ寺はどうするんだ、って言ったら、お寺もやるんだよと言う。中学生の頃でしたから、医者やってお寺やったら儲けて大変だ、「こんな悪いことできないと思って勉強しなかった。(笑)『白衣と僧衣』のとき、坊主になりたかった医者」と医者になりたかった坊主と」、という副題をつけた。私は反対だった。もっと違うのにしよう。僕だったら「法事によばれる医者」と婚礼によばれる坊主と」。先生は大抵殺した患者の法事にいきますからね。僕もこの頃結婚式が多くなりました。失敗したなと思いましたがね。法事や葬式はもらえますけど、結婚式は出さなきゃいけませんからね。(笑)

刑務所のことをもう一つ。今刑務所が建築中でなかなかみんなと会えない。今は刑務所にいって、お前にはなしがあるから来いや、と言ってもだめです。向こうから私を呼びます。ですから何人いる

か分からない。或る日刑務官に聞きました。そしたら刑務官が頭を掻きながら、「先生困っているんですよ」、なにが困っているんですかと聞いたら、「青森の刑務所は四百何十人の定員があるんだけど今三百何十人しかいないで困ったですよ」って言うんです。そりゃあ、困ることもあるんでしょうね。でも僕は言ってやった。「困ることはないじゃないですか。刑務所には誰も入らないほうがいいし、刑務所なんてないほうがいいじゃないですか。」そしたら、「いいやそうでもないんだよ。どんどん予算が削られて、最後は自分のクビまで危ない。」と、言いました。「いいじゃないか世の中のためなら、あんたのクビの一つくらい。」そしたら、ニヤッと笑って「先生、あんたも同じだべ。この頃葬式がないって愚痴ってるでしょ。」そこで僕は「そうじゃないでしょ。刑務所に入らない人はたくさんいるけど、死なない人は一人もいませんね。」だから死刑囚です、みんなね。生まれたら死ぬんです。今、死刑廃止論があります。私には難しくとても語れないです。ところが今回のオウム事件で騒いでいるこの時期に、死刑廃止論を大声で唱えたらどうでしょうか、みんな納得しなんでしょうか。人を殺したら自分の命で償い

をする。そしたら、麻原は20回も死ななきゃだめでしょうね。で、一概にこういうことは言えない。というようなことを考えているんです。

友松 圓諦 先生 と 私

今日は亀谷大先輩がいらしているんで話難いんですが、今自分があるのは、亀谷先輩も一緒でしたけれども、友松圓諦という先生のところ13年いました。この人のおかげをもって、今皆さんにお話しすることができるのです。学校を出まして家に帰ってきましたけれども、家には爺さんと父親がいて、3人いると1人余るもんですから出稼ぎに行けということで東京へ行きました。友松圓諦という人の所です。木村先生もこの間話したようですが、武見太郎先生も慶応の仏教青年会の教え子であります。そういう先生を育てた。

友松先生は名古屋の米屋の次男坊です。あの辺は男が二人以上生まれますと一人を出家させる。そうすると七代栄えるという信仰がありまして、十才の時に深川の法禅寺という浄土宗の寺に弟子に入りました。おじさんの寺です。ところが坊主坊主と言われるもんですから嫌でしょうがなかった。全くその通りであります。私どもも坊主と言われるのは嫌ですね。坊

主という言葉は余りいいのがありませんね。すけべ坊主、三日坊主、糞坊主、生臭坊主、落第坊主。我々もよく陰口を言われま。私は時間前に仕事に行くようにしてるんですよ。遅れて行くと壇家の人「家の坊主まだこねな。」って言うてるんですね。入っていった途端に「和尚さん、どうぞ。」（笑）友松先生も坊主と言われるのが嫌で、家に逃げて帰ってきた。14才の時です。お母さんに「お前なんで逃げて帰ってきた。お釈迦様が嫌いなのか、仏教がだめなのか。」「そうじゃない。」「じゃあ、なぜ帰ってきた。」「坊主坊主と言われるのが嫌で帰ってきた。」「そうか、坊主が嫌なら嫌でない坊主になったらどうだ。」その言葉にピンと来まして、取って返しまして一生懸命勉強しました。大正大学を出まして慶応大学にはいりました。フランスのソルボンヌ、ドイツのハイデルベルクに行って語学の勉強をしました。生涯、先生は背広にガウンを来て細い輪袈裟をかけ、そしてみんなと一緒にお経を読んだもんです。

私はちょうど昭和35年9月24日に神田寺に入りました。そしたら先生が言いました。「三浦君は要領がいいね。昨日は彼岸の中日で忙しかったんだよ。」誉められたんだか、けなされたんだかよく分

からない。そこへ突然に法事が一件来ました。「お前今日の法事に出る。」と言われて出ました。法事が終わりました先生が御布施を持ってきました。見ますと2000円入っていました。そのころ私どものうちにいて法事をやると、御布施が50円か100円でした。びっくりしました。これは先生が間違っ自分の御布施を持ってきたんだと思って、先生の所に行くと、「三浦君、お釈迦様って偉いな。お前みたいなものがお釈迦様の教えを読んだだけでこれだけ御布施を頂いたんだよ。お釈迦様の素晴らしさがお前に分かるかい。」と言われましたね。その裏には、お前がグズグズしていたらお釈迦様に恥をかかせることになるぞ、と云うことですね。こういうことをスパッと云ってくれました。僕は生涯そういう気持であります。

もう一つ忘れられないんですけど、私の寺は昭和50年から53年までかかって鉄筋3階建ての寺を建てました。先生の一言がこの寺を建てさせたんです。どういうことかと言いますと、「人の懐は人に勘定させるんだ。お前が勘定しちゃだめだぞ。」と必ず言っていたんです。だから僕は寺を建てる時に、あなたはいくらご寄付できますか、というアンケートを全部の壇家さんに出しました。1000万集まったら1000万の寺、200万

集まったら200万の寺を建てよう
と思いました。アンケートが帰っ
てきてびっくりしました。3億
6000万ありました。

こういう方の側で13年間頑張っ
てきました。私の子供は全部あそこ
で生まれました。いい方に出会い
ました。私の発想は友松先生の発
想かなと思いますね。

宗 教 と は

私の子供は3人なんですが、ク
リスマスの頃になると何時も機嫌
が悪いですね。面白くないって。
家ではずーっとクリスマスをしな
かったんですが、幼稚園や小学校
にはいるとみんながそういう話を
するもんですから嫌だったんで
しょうね。家の家内と、いったい
どうすればいいという話をしまし
て、そしたらなかなかいいことを
言いました。「もし、キリストさ
んとマホメットさんとお釈迦様が
会ってお話をしたら喧嘩するだろ
うか。」と言いました。「いや、
喧嘩はしないだろう。」「じゃ、
お友達になれたかしら。」「ま
あ、なれんじゃないの」「クリ
スマスはキリストさんの誕生日だよ
ね。友達の誕生日をお祝いしてあ
げるのは当たり前じゃない。」
と、こういいました。それからク
リスマスをするようになりました。

なぜこういう話をしたかとい
うと、このまえドキュメンタリー大
賞を取った「道ゆきて」という番
組がありますね。青森はこの番組
が入らないので、息子の所に電話
して録画してもらって何度も見ま
した。この和尚は衣を来たままで
病院にも行くし、どこへでも行き
ますね。そして一番感動したの
は、キリスト教のシスターと一緒に
いろんな仕事をしていますね。
患者の前で話をしたり、シスター
の卒業式に衣で出て一緒に讃美歌
を歌ってますね。僕はこれを見た
ときに「ああ、子供のクリスマ
スをやったときと同じだな」と思
いましたね。宗派の間でも喧嘩し
ていますが、まったく「宗論はど
ちらがまけても釈迦の恥」です
ね。宗教も同じだと思います。
どっちが負けても釈迦の恥だしキ
リストの恥だしマホメットの恥で
すね。そうじゃないんです。それ
ぞれ方法は違ってもめざすところ
は一緒なんです。「道ゆきて」を
見て非常に感動しました。

倫 理 委 員 会 と は

それではこれから肝移植の話を
したいと思います。私が倫理委員
会の委員になったときも教誨師の
時と一緒にです。あまり倫理感のあ
る人がやると、当たり前当たり前
で進歩がないだろう。私のような

倫理感にかけたやつがやれば真剣になって考えるかもしれない。そうってお引受したわけです。この委員会は14人おりましてそのうちの10人がお医者さんです。内科、小児科、外科、精神科、眼科などです。そして医者でないのが私と弁護士と弘前大学の文学部の法律の教授と倫理の教授、この14人で構成されております。

生体肝移植は去年始めてやりました。飛内賢吾君という2才の子がお母さんの肝臓を頂戴して、とても元気になりました。今回の阿部さんのことについて、東奥日報の記事をずっと切り抜いてもってきました。非常に不思議だったのは9月14日付けの記事です。「19日実施へ 検討委員会」。これは14人の委員会がゴーサインを出しますと、必ずそこから検討委員会という専門職の委員会を作ります。これは4人です。この4人で検討したことをまた我々に伝えてOKとなるんです。ところがこの検討委員会は18日に行なわれて19日に手術実施です。これははじめからもう決められていたことなんです。ここでもし移植に反対となっていたらどうなったんでしょうか。話し合いをしているうちに患者はどんどん悪くなっているんですね。とにかくたくさんの資料が渡されます。ところが実名の入ったもの

は全部回収されてしまいます。我々は教授室で会議をします。その外には新聞社の人やテレビ局の人やたくさんおります。で、終わって出るとバーと集まってきます。ですが、我々は一切話をしてはいけないんです。全部委員長が話すんですね。そういうことが私は納得いかないんですね。

現実問題と倫理

日にちを追って話していきますと「弘大 東北初の成人間肝移植」。東北では始めてですが日本では129例あります。そのうちの成人間は14例あります。そのうち亡くなった方が5人おります。先生方は5人のうち1人は交通事故で亡くなったから、これは外してくださいといえます。とにかく弘前大学のような所は何かしなければ他の医学部に対抗できないんじゃないか、そう考えているんじゃないでしょうか。これは19日の見出しです。

その次に、その日の夕刊ですけど「今日成人間肝移植 秋田の主婦に実弟が提供 弘大検討委員会が承認」。その次の日「弘大肝移植 医療費基金が一部負担 県民に限るの例外扱い」これはどういうことかといえますと、ちょっと読みましょうか。「19日に秋田県民同志で予定されている弘大医学

部の成人間生体部分肝移植で、公益信託青森高度先進医療基金の本田良治運営委員長は18日、健康保険が適用されない医療費について、青森県民に限るという条件の例外として弾力的に運営する意向を示した。これは画期的なことですね。「生体肝移植は京大、信州大、名古屋市立大、東北大の4施設では高度先進医療として健康保険の適用が一部認められている。しかし弘大では認められておらず、医療費の患者負担が大きな問題として横たわっている。同日の会見で今充弘大付属病院長は今回の医療費は約2000万円だが、大学で負担可能なのは学用患者として扱える患者の手術費約300万円だけで後は基金に頼るしかないと言明。同基金について青森県民に限り、という条項は変更可能か検討してもらっている。」これはこの日手術をしてからこんなことを考えているんですね。面白いもんですね。結局、青森県に限りということ秋田県人間ですけれども例外として認めて欲しい、ということ希望しているんですね。「当社の取材に対し、今田委員長は例外があってもいいと考え検討したと話し、運営委員内部で適用を考えていることを明かにした。また、範囲は全額負担するのではなく臓器提供者の手術分など限定されるだろうと述べ、弾力的に運用

する意向を示した。同基金は昨年2月、同医学部で生体部分肝移植を受けた青森市の飛内賢吾ちゃん（2つ）の手術費約1200万円（うち約280万円を弘大が負担）のために集められた募金をもとに、今年4月設立された。運用基金は約4000万円、しかし対象は県内在住者と限られていた。」こういうのを見てますと、我々が本来の倫理の問題ということを話す機会がないんですね。もうそこに阿部さんという方がいて、今やらなければだめなんですよという問題を突き付けられているんです。私はそこでどんな話しをすればいいのでしょうか。

今回は阿部さんという主婦がいる。お子さんは8才です。弟さんが今回肝臓を差し上げたんですけれども、この人は29才です。1才の子供がいます。それから26才で独身の妹さんがおります。両親は離婚しております。そこで、なぜ弟さんが肝臓を差し上げることになったのか。一番困るのは誰でしょうか。奥さんですよ。子供もいます。両親は分かれていますけれども、話し合いには出なきやいけないですよ。話合いの中で弟さんが自分の肝臓を提供すると言ったとき、お嫁さんの立場というものはいったいどうだったのでしょうか。私は最初からそのことを何回も聞いていたんですが、13

日の委員会で教授が「三浦さんのおっしゃっていたことを聞いてみました。そしたら1番賛成したのがお嫁さんでした。」と言うんですね。ですから、そんな危惧はないということで皆納得したんですが、本当にそうだったのかどうか分かりませんね。こういうふうに、倫理ということと実際の問題というのは大変難しい。

もし私達が移植は絶対いけないといったら、エホバの証人が言ってます輸血がいけないというのとダブってしまいます。そうでなく、今一人の人間の命が助かるかどうかの瀬戸際の時に、ドナーがいてレシピアントがいて医師が大丈夫ですと太鼓判をおしたときに、我々はそれは止めたほうがいいということとはとても言えることではないですね。困っていることがあるんですが、今日の朝日新聞ご覧になりましたか。両親からの生体肺の移植が11才の子に行なわれているんですね。我々の知らない所でこういうことがボンボン行なわれているんです。私どもが肝移植で話し合っているときも、青森の方がオーストラリアで死体肝の移植をして元気になって帰ってきています。外国でやると4・5千万かかるそうですね。日本だと1200万から2千万。そうしますと、徒に我々弘大の倫理委員会が移植に反対だとなれば、外国で移

植をうけてくるようになるでしょうね。

私が倫理委員になったころは、角膜と腎臓の移植は法律で認められていました。肝臓は1つしかないから肝臓を提供するのは大変じゃないかと思って質問したんですね。そしたら大学の先生が説明してくれました。肝臓は1つだけれど左肝と右肝に分かれている。そして切っても段々大きくなるんならそうですね。ところが肺はそうじゃないですね。ですから新聞にも「提供者に負担の恐れも」という見出しがあります。これを読んだとき、もしこの子が元気になったとして、両親のうちどちらかがなくなった場合、この子の生涯はどうなるんでしょうか。

倫理委員になった最初の頃、木村先生に知恵をつけられまして「脳死から心死の間まで何分あるか聞いてみる。」と言うんです。自分では8分あったという経験があるんですね。それを質問してみたんですがお医者さんは一人も答えてくれなかった。答えてくれたのは弁護士さんでした。「三浦さん、脳死と心死は山で死んだら関係ないよ。大きな病院だからあるんだよ。」そうすると何のために脳死を認めるのか。移植があるからですね。移植がなかったら脳死なんて必要ない。そういうところに恐ろしさがあるんじゃないかな

と思うわけです。

東奥日報の記事をずっと追っていきますとドナーのことはほとんど書いてないですね。私はどちらかということと提供した人の状況が知りたいですね。なんでもない体を切っているんですから。こういう新聞の報道の仕方はどうかと思いますね。それから、突然にまゆみさんを救おうと親友らが募金を呼びかけるんですね。これが9月の20日です。手術の次の日ですね。なぜ肝移植をしなきゃいけないという時に呼びかけないんでしょうか。すんでからばかり始まる。もし募金が集まらなかったらどうなる、そんな危惧もあるんです。こういうことは倫理委員会では話しをするような雰囲気じゃないです。

医学・法律・倫理そして仏教

もう1つ倫理委員会の中では体外受精のことについて話し合われます。最初に体外受精の答申がでたのは平成4年3月です。体外受精は正式な夫婦であること、どんな治療をしても子供が授からない、体外受精をしたら子供が授かる見込みがある、以上の場合にはOKということがでた。現在までどれくらいの人が体外受精をしているかというと弘前大学でも297例です。

そして今度は精子の力、卵子の力が弱いと結合しないために、より結合させようとして顕微受精というのがでてきた。平成5年12月に答申されました。これはたくさんさんの精子とたくさんさんの卵子を結合させるわけですね。それで多産がおきる。もう3つ子は話題になりません、5つ子でないと。そうすると今度はなにがでてきたかというと、間引きがおきてきた。これは正式に長野のお医者さんがいっています。我々がどんなに許されないといっても、お医者さんの中には当然だという人がいるんです。

よく無著成恭が言います。「宗教は突き詰めると、そこまでやっていいのか、と思う心だ。」私は肝移植などで倫理委員会にでていると、結局はお医者さんの宗教心を待つより仕方がない、そこまでやっていいのかという心が無かったらどこまで行くか分からない、そう思いますね。医学、科学がどんどん進むことが、本当に幸せなのかということですよ。

最後にこういうことを考えているんです。それは脳死でもなんでも法律で決めようとしている問題です。なんでも法律にしてしまえばいいという考えは絶対だめだとおもうんです。第一に老人がそうです。9月15日の敬老の日に今までなにもしなかったのにガヤガヤ

騒ぎだして、ゆっくり休もうと
思っていたのに餅なんか持ってき
て老人も大変です。これは法律で
決めたからです。「老」というの
は敬がつかなくても尊敬されるの
もです。法律で決めたために365
日の中でたった一日だけ老人を
敬った真似をすればいいのか、と
いうことですね。

ある人から聞いた話しですが、
「敬老」の前はなんだったかとい
うと「養老」なんですね。親孝行
な子供がいまして、一生懸命働い
て父親に酒を飲んでもらおうとし
たがなかなか暮らしが楽にならない。
それを見た神様が同情して養
老の滝を酒にした、という話で
す。「養老」の前は「棄老」で
す。姨捨山です。深沢七郎の檜山
節考です。あの小説の母親と息子
の心情というのは素晴らしいもの
ですね。母は息子に迷惑をかけた
くない、この歯が丈夫だからいけ
ないと石臼に歯をぶつけて欠いた
り、片方は一日でも長くいたい
という情愛。「棄老」は言葉で言う
といかにも殺伐としてますけど、
その心情たるや素晴らしいもので
す。その前は何かと言うと「食
老」という言葉があった。年寄り
を食べたということですよ。言葉
で言うと大変なことですが、そ
うじゃ無い。老人の知恵が死んで
しまう、無くなってしまおうとい
うことが惜しくてしょうがない。老

人を食べることによって、この知
恵を自分のものにしようという考
えです。「食老」「棄老」「養
老」「敬老」と言う4つの段階が
あったとすると、いったいいつの
時代の老人が幸せだったんでし
ょうか。少なくとも今の老人より幸
せだったんじゃないでしょうか。

法律、仏教の戒律の律は決め付
けです。悪いから決めるんです
ね。戒というのはそうじゃない。
自発的なものですね。自分から進
んでそうしてはならないというも
のです。これがなかったらだめだ
と思う。律を卒業して戒の世界が
来ることが人間の生き方じゃ無い
でしょうか。

時間のようですので終わります有
難うございました。

質 疑 応 答

フロアー；交通事故の場合に、臓
器を取るようなことがあるんで
しょうか。

三浦；ないと思いますが法律化さ
れた場合にそんなことが起こるん
じゃないかと思ってかえって心配
なんです。木村先生が、あんだど
う思うか知らないけど僕は臓器移
植に反対だよ、とっていました
けどこの中で賛成の人はいます
か。

フロアー；条件を整えば賛成しま
すけど基本的には賛成できませ

ん。生前に申し出があった場合に限って提供はできるだろうけれども、法律で決めて脳死の人から臓器を摘出しようというのは行き過ぎだと思います。

フロアー；例えば先ほどエホバの証人の話しもありましたけれども、輸血というのも血液の移植と考えていいのではないかとおもっています。人のからだの一部分を提供することによって病気の治療におおいに役立つとした場合、提供してもいいという人がいて、それを受け取って寿命を長引かせる人がいて、そしてそれを取り持つお医者さんの倫理観がしっかりしていれば臓器移植は素直に認めてもいいのではないかなと思います。

三浦；それは生体間ですか死体間ですか。

フロアー；むしろ日本の場合は死体からの移植が認められないために生体からの移植が行なわれています。外国の場合はほとんど無いです。かえってそのためにドナーの健康を心配しなければならないという大きな問題があります。私は心臓死で亡くなった人の場合でも意思がはっきりしていればいいのではないかと思うし、脳死の場合でもあえて倫理的に間違っているとはいえないと思います。

三浦；我々が危惧するのは、脳死と心死があるということは裏に臓

器移植があるということです。今はまだ条件が整わないと思うんです。

フロアー；どういう条件が整えばいいのかという問題は、倫理委員会ではどう話し合われているのでしょうか。

三浦；私は結局医師のモラルが第一だと思います。うがった見方ですが、大学の名声を高めようなどという違った目的があってはいけないと思うんです。自分の時はどうかということをもっとお医者さんは考えるべきだと思うんですね。職業的になり過ぎているんじゃないかという気がします。いいか悪いかの結論を急ぐのではなく研究し激論を交わしながら歩んでいくということが大事だと思うんです。それが条件だと思うんです。私が言いたいのは倫理委員会に上がってくるときは、死ぬか生きるかの状態で上がってきってしまうんですね。反対したらエホバの証人と同じになってしまう。弁護士さんはもっとはっきり言いますね。ドナーに対しては傷害罪だと言います。難しい話しですね。

フロアー；ガンになったんですが、死に向かい合ったとき、とにかく生きたいと思ったんですね。生きたいから悲しいし泣くし。でも私は今死にそうであっても健康な人に臓器を頂戴とは絶対思わない。あげたいとは思うかも知れま

せんけど。

三浦；欲しいものがあれば売るものも絶対でてくるんですね。私は絶対生きたいから誰か頂戴といったら、いくらなら買うのというようなことになってくる。臓器売買ですね。今回の安部さんの場合でも、私なら提供するなら妹さんだと思っわけです。その方がまだ危険が少ないですね。弟さんは奥さんもいるし子供さんもいるし、何かあった場合誰がどんな保証をするのか。だから何度も質問をしたら最後にデータ見せられた。これこのとおりしっかりしてますよという、そうですかと言うしかないですね。お医者さんから「移植すれば助かりますよ」というようなことを言って欲しくないですね。聞けば人間は一筋の光明を求めますからね。消極的な意見ですが、どうでしょうか。

フロアー；移植すれば助かりますと言われたとき、当然臓器を提供する人がいるべきだ、家族がいたらあなたよこしなさい、そうなったら恐ろしいことになると思いますが。

三浦；進んでくるとそれが当たり前になる。それが怖いんですね。

フロアー；先進国では何年も前からそれが問題になっているんですね。欲しい人の方が圧倒的に多くて、そこに日本人が行って貰ってくるもんだから尚更いろいろ問題

になっているようなんです。しかし、臓器移植でしか助からないという人の心の中に、誰か死んでくれないかという心が起こってくるかも知れないという恐怖をどう支えていくか、誰が支えていくか。それから臓器を提供しようかどうか、臓器の移植を受けた方がいいかどうかという悩みを聞いて、解決の道を探っていくべき人は誰なのか、ということに求められているものがあるのではないかと思います。

三浦；誰がそういうことをするのかということは大きな問題ですね。アメリカはキリスト教が徹底してますから、亡くなったら物体ですからね。日本の場合は魂とかいろいろ考えるわけですから、国民性を無視しては絶対にだめだと思います。

浄土宗を学ぶ

小林匡俊

ビハラ比内事務局 正覚寺副住職

日本の仏教だけでも十三宗五十六派といわれています。ビハラが発足してまもなくの頃から、せっかく仏教各宗が集まっているのだからそれぞれの宗派について勉強してみようじゃないか、という声が上がっていました。時間は経過しましたが現在お坊さんの間で勉強会を持っています。今後テーマをしぼって広く皆様にも参加していただく講座にしたいと思っています。とりあえず、勉強会の講師の方からそれぞれの宗派についての紹介をしていただくことにしました。第1回目として浄土宗について小林匡俊さんに担当していただきました。(ビハラ編集部)

浄土宗は誰が開いたの・・・？

今から820年前、承安5年(1175年)、法然上人(ほうねんしょうにん)によって開かれました。法然上人、43歳の春のことでした。

浄土宗ってどんな教え・・・？

阿弥陀仏の平等のお慈悲を信じ、「南無阿弥陀仏」とみ名を称えて、人格を高め、社会のためにつくし、明るい安らかな毎日を送り、お浄土に生まれることを願う信仰です。

法然上人以前の仏教は、僧侶のための仏教、修行の仏教、山(比叡山、高野山)の仏教、成仏の仏教でありました。このことに法然上人はおおいに疑問を持たれました。

本来の仏教とは、高位高官を求める僧侶のための仏教、金持ち、貴族のための仏教、自分一人のみの解脱を求める修行、限られたものだけの閉ざ

された仏教、成仏を目的とする仏教ではないはずだ。本当に救われなければならないのは、仏像や塔をつくるようなお金のない貧者である、学問もない愚鈍のものである、およそ仏教とは縁のないものほど救われなければならないとして、在家の仏教、信仰の仏教、里の仏教、往生の仏教に180度転換・改革されたのです。このことが後に、鎌倉仏教と言われる日本の宗教改革の礎となっています。

阿弥陀様ってどんな仏様・・・？

浄土宗の御本尊は、阿弥陀如来です。阿弥陀というのは、インドのサンスクリット語で計算できないということで、阿弥陀仏というのは、限りないのち、限りない光（慈悲・智慧）を持った仏様という意味です。

私たちの「いのち」は、遠い過去から現在、そして未来へ連続したものです。そのいのちの根源を阿弥陀といいます。それは人類を含めてあらゆるものを生かしている宇宙の大生命といえます。

そして、「慈悲」というのは人に楽を与え、人から苦を除き、人に安心を与える、そういう心の働きです。それから真理に目覚めさせる、人の心にこの目覚めを起こさせる働きを「智慧」といいます。

よく、「阿弥陀様は歴史上根拠がないし、人が考えた想像上の仏さんではないですか」と聞かれます。しかしこれは逆であって、私たちが日常の体験で、「ありがとうございます」という言葉がでたときには、もう周囲の方々からお慈悲をいただいています。「なるほど」という体験を持つたびに智慧をいただいています。いただきづめです。慈悲・智慧の働きで、毎日毎日私たちは育てられています。生まれてから未来永劫そうだと思います。その尽きることのない慈悲・智慧の目に見えない働きを「阿弥陀」と呼ぶのです。

阿弥陀様は働きがまずあり、何とも名付けようがないので、「尽きざるもの」という意味で「阿弥陀」と名付けられました。働きがまずあって、そして後から名前がついた。ですから、私たち人間がつくりだしたり想像したりするものではありません。因縁が整えば、ないと思ったところに急に現われ出てくる働き、それが慈悲・智慧なのです。

「念仏」って何・・・？

「馬の耳に念仏」とよく言われますが、浄土宗でいう念仏は「南無阿弥

陀仏」です。

ではなぜ、「南無阿弥陀仏」なのでしょう。

阿弥陀様が仏になれる以前、法蔵菩薩という名で修行されていたとき、48の願を建てられました。これは、この48の願いがすべて達成されないかぎり私（法蔵）は仏に成ることはできないと誓われたもので、その第18番目の本願に、「もしも、私の名を称えて、あらゆる人々が私の構える浄土に往生できないのなら、私は仏になることはできないであろう」という、念仏往生の願を建てられています。

今現に、阿弥陀仏として西方浄土にいらっしゃるということは、この48願すべて成就されたということであり、浄土に往生されたかたがいらっしゃることの証明でもあります。

浄土とは何でしょうか。物心両面から人間の理想的状況を実現した世界、つまり理想の国もしくは社会ということです。そして、本願とは、あらゆるものを生かしている大生命は、すべてのものをはぐくみ育てる意思を持っているということです。

そして、往生とは、この宇宙の大生命に必ず還るという希望をもって進むことを意味します。

つまり、人間は自分以上の大いなる力によって生かされているのであって、日々の生活の中にそのことをはっきりと自覚し、そのことを念じて、一歩でも二歩でも自らの理想に向かって安らかな感謝の心で前進していくならば、この世の生涯を満足して送ることができるのです。それが、法然上人の願いでもあり、阿弥陀様の慈悲につつまれた生き方でもあるのです。

老いの楽しみ

沢村貞子著

岩波書店 1300円

1993/9/8発行

沢村貞子さんのことは映画やテレビをとおして御存知の方も多いと思います。著者は明治41年浅草に生まれ、戦後60年間女優として活躍しました。「もう、後いくらない人生だからね、どこか海の見えるところで暮らしたいなあ。そうすりゃあ、つまらない欲や見栄もなくなって、ごく自然に暮らすことができるような気がするね。」と言う家人(夫)の言葉で急に引越を決め、40年余り住み慣れた東京を離れ、湘南の海が眺められるマンションに移り住みました。

「社会の波に流されてゆく自分の暮らしを、自分の思いでじっと見つめて書くのは楽しい。齢を重ねるほど、他人の心も自分の心もなんとなく見えるようになった。人間という生き物の心にひそむ優しさ、哀れさ、醜さなどの変化と面白さにひかれてなにやかやを書きつづけるようになった。」(『あ

とがき』より抜粋)

この本は日常生活の中での出来事、感じた事が優しく表現されており、著者の人をそして物を愛する気持がひしひしと伝わってきます。子供の頃の父母の教えや、近所の人達との関わりの中から得たことを今尚受け継ぐ、下町女の人情が感じられるのです。

「好きな言葉の一つ『縁』この字にはなんとも言えない魅力がある。辞書に『人と人、または人と物事を結びつける不思議な力』とあるのが嬉しい」と書かれてありますが、その「縁」を大事に自分の人生をしっかりと生きていく姿がみられます。

「明治、大正、昭和、平成と溜息がでるほど永い年月を、ただもう忙しく働きつづけてきたものだった。女優家業の店じまいをした私は、盛大に遊ぶことにしようと思返事をしたものの、さて遊ぶとしたらなにをしたらいいのかさっぱり見当がつかなかった。そんな人生を後悔することもなく結構楽しかったなどと思っているのはなぜだろう。遊びたいとどうして思わなかったのかしら。振り返ってみると私は若いときから、自分で楽しいと思うことだけをしてきた。」(『年よりはブラブラ』の項より抜粋) 戦中戦後を生きてき

て、様々な苦勞があったでしょうに、苦を苦と思わず生きられ、楽しい人生を送っている著者の前向きな心の持ち方に感銘してこの本の紹介となりました。平均寿命が延びるにつれ、老人と呼ばれる人も多くなり、またその期間も年々長くなっています。老いは昔から苦しみとして捉えられてきました。その老いを楽しみとするその秘訣をこの本からそっと盗んでみ

たい気がします。齢をとるって素敵なことですね。（亀山敦子）

他の著書の紹介

- 「貝の歌」 新潮文庫
- 「私の浅草」 新潮文庫
- 「私の三面鏡」 朝日新聞社
- 「私のおっせかい談義」 光文社
- 「寄り添って老後」 新潮社
- 「老いの道づれ」 岩波書店

INFORMATION

来年10月、秋田市で一般公開講座開催

この度、曹洞宗秋田県青年会から、来年10月20日に行なわれる東北曹洞宗青年会秋田大会の一般公開部門をビハーラで担当してもらえないかという要請があり、事務局会を開いて検討した結果、引受ることになりました。引受るに当たりましては、ビハーラの団体としての性格を良く理解していただき、宗派にこだわらないこと 講師の人選など一切を任せてもらうこと 曹洞宗秋田県青年会とビハーラの共催という形にすること、などの条件を提示し承諾されました。

現在、実行委員会を組織し検討しておりますが、これまでに決定したことをお知らせ致します。

- 1、日時 平成8年10月20日（日）午後1時より午後5時まで
- 2、会場 秋田市文化会館 大ホール
- 3、形式 1部 メイン講師2名の講演
2部 数名のパネラーを交えてのパネルディスカッション
- 4、講師 金子真介師（フジテレビドキュメンタリー大賞受賞作「道ゆきて」で取り上げられた長崎の僧侶・決定）
森津純子氏（現昭和大学緩和ケア病棟医師 元長岡西病院ビハーラ病棟医師・交渉注）
パネラー 地元の方という条件で検討中

来年のことを言うと鬼が笑う、といいますが是非ご参加ください。

第27回全国ボランティア研究集会にビハーラ参加

来年2月10、11、12日秋田市を会場に行なわれる第27回全国ボランティア研究集会、第5分科会「ターミナルケアと病院ボランティア」にビハーラが参加することになりました。

この集会は今回初めて東京以北で行なわれる全国規模の集会で、17の分科会、4のワークショップ、3のフォーラムさらに全体フォーラム、全体集会と盛り沢山の内容です。ビハーラに関連のある分科会を上げてみますと、「在宅ケアとボランティアの課題」「一人暮らし老人の本格的な食事サービスを考える」「精神保健ボランティア」などがあります。詳しくは秋田ボランティア活動センター（秋田市牛島西1-4-17 TEL0188-35-6670 FAX0188-36-1222）まで

ビハーラセミナーと総会

先に御案内しましたように、さる11月30日にセミナーを行ないました。講師の木村高寛先生から「ビハーラ雑感」と題して、ビハーラに求められていることを認識して、ビジョンを明確にすること、実践をめざすことなど、数々のご提言を頂きました。詳しくは次回リポートに掲載いたします。

その提言を実際の活動に生かしていくために定例の総会を開きます。日時会場は未定ですが決まり次第ご連絡いたします。ビハーラがさらにステップアップするためにも、是非参加してください。

弘前から遠路お越しいただきました三浦師に感謝申し上げます。リポート編集が遅れセミナーが先になってしまいましたこと、お詫びいたします。

木村氏のセミナーは、ただお話を伺うばかりでなく、ロールプレイやビデオを取り入れ、熱気溢れる内容でした。さらに、ともすれば現状に甘んじてしまう事務局にカツを入れていただきました。ビハーラは、というよりその中の僧侶は、今正に真価を問われるときなのです。覚悟を新たに新しい年を迎えたいと思います。

ビハーラリポート

第17号 1995年12月4日発行

ビハーラリポート発行所

ビハーラ代表 兼能代山本地区事務局

藤里町月宗寺内 袴田俊英 0185-79-2468

大館地区事務局 越姓玄悦 0186-49-6957

比内地区事務局 小林匡俊 0186-55-1144

森吉地区事務局 奥山亮修 0186-72-4143

阿仁地区事務局 今井典夫 0186-82-2418

鷹巣地区事務局 佐藤俊晃 0186-66-2032